

# 2011年度 事業報告書

( 2011年4月1日から2012年3月31日まで )

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

## 1 事業の成果

### ○事業概要

福島原発震災を受けての緊急助成の公募・選考を行い、8件、総額500万円の助成先を決定した。  
 第9回助成先(2009年度募集分)の調査研究・研修の成果発表会を実施した。  
 第10回助成先(2010年度募集分)については、その調査研究・研修活動の支援を行った。  
 第11回助成の公募・選考を行い、国内の助成枠として25件、1090万円、アジア枠として7件、270万円、合計32件、1360万円の助成を決定した。  
 福島原発震災を受けての緊急助成の「中間報告会」を実施した。  
 引き続き、2007年度から委託研究として実施している「柏崎刈羽・科学者の会」の研究活動を支援した他、福島原発事故検証などを実施する組織「APAST」に委託研究として支援を行うことを決定した。  
 通常の助成募集枠では間に合わない緊急の助成申込みに対し、2件150万円の緊急助成を決定した他、緊急助成で支援した団体(3件)などを対象とした指定寄付の募集を行い、助成金の追加支給を行った。  
 第11回助成に応募があった各地での放射能測定に関する活動を実施する団体を主な対象に「研究交流会」を開催した。  
 これらの活動を「高木基金だより」とメールマガジン、ホームページなどを通じて報告するとともに、実施事業や市民科学のあり方などについての広報・普及活動を行った。

### ○事業経過

2011年 5月 6日 高木基金だより No. 26 発行 <約2,700通>  
 2011年 5月25日 福島原発震災を受けての緊急助成募集〆切  
 2011年 6月 1日 助成選考委員の一般公募を実施  
 2011年 6月19日 選考委員会(緊急助成)及び2010年度総会開催  
 2011年 7月 9日 第9回助成の成果発表会を開催 <東京・カタログハウスセミナーホールにて:参加者85名>  
 2011年 9月15日 高木基金だより No. 27 発行 <約2,700通>  
 2011年 9月30日 助成募集(アジア枠調査研究・研修奨励)〆切  
 2011年10月 1日 福島原発震災を受けての緊急助成の中間報告会を開催 <東京・カタログハウスセミナーホールにて:参加者85名>  
 2011年11月15日 高木基金だより No. 28 発行 <約2,700通>  
 2011年12月10日 助成募集(国内枠調査研究・研修奨励)〆切  
 2012年 1月23日 選考委員会(国内枠)開催  
 2012年 2月 1日 高木基金だより No. 29 発行 <約2,700通>  
 2012年 2月18日 第11回助成の公開プレゼンテーションを開催<東京・YMCAアジア青少年センターにて:参加者73名>  
 2012年 3月25日 放射能測定問題についての「研究交流会」を開催<名古屋・つながれとNAGOYA:参加15団体>  
 2012年 3月30日 高木基金だより No. 30 発行 <約2,700通>

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者	受益対象者の範囲及び人数	支出額
(1) 市民の科学を目指す日本国内及びアジアの個人・グループの研究・研修への助成	国内の個人・グループへの調査研究助成	2011/4/1~2012/3/31	主に国内	(1)-(2) 共通で専従2名	主に国内の個人・グループ	NPO/グループ 23団体	市民科学をめざす個人・グループへの調査研究助成金 10,000,000円
	国内の個人への研修奨励	2011/4/1~2012/3/31	主に国内		主に国内の個人	個人 2名	市民科学をめざす個人への研修奨励金 900,000円
	アジアの個人・グループへの調査研究助成	2011/4/1~2012/3/31	主にアジア		アジアの個人・グループ	7団体	市民科学をめざすアジアの個人・グループへの調査研究助成金 2,700,000円
	募集告知、助成先選考、助成研究・研修の成果発表	2011/4/1~2012/3/31	主に国内		国内及びアジア	応募数 95件(個人・グループ)	助成関係費 3,110,699円
(2) 市民科学の理念及び研究成果の普及	支援者及び一般への研究成果の普及・活動状況等の広報としての「高木基金だより」の発行	NO. 26 2011/5/6 NO. 27 2011/9/15 NO. 28 2011/11/15 NO. 29 2012/2/1 NO. 30 2012/3/30	国内	高木基金の支援者及び一般	各2,700名(発行部数)	広報活動費 1,704,077円	
	助成先等の報告会・研究会及びセミナー等の開催	2011/7/9, 10/1 2012/2/18, 3/25	都内	一般	7/9 85人 10/1 85人 2/18 73人 3/25 15団体	普及活動費 597,656円	
(3) 市民科学を目指す実践的な活動への助成	国内の個人・グループへの調査研究助成	2011/4/1~2012/3/31	国内	主に国内の個人・グループ	NPO/グループ 11団体	市民科学をめざす実践的な活動への助成 13,016,000円	
	委託研究	2011/4/1~2012/3/31	主に国内	一般	(広く社会一般に研究成果が還元される)	委託研究費 3,000,000円	
(4) 自然エネルギー利用および省エネルギーの研究および普及活動への助成	今年度は実施せず						

### (2) その他の事業

なし

以上

2011年度（特定非営利活動に係る事業）収支計算書

2011年4月1日から2012年3月31日まで

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目	金 額 (単位:円)	
<b>I 収入の部</b>		
1 会費収入	4,561,000	
2 事業収入	0	
3 補助金等収入	765,300	
4 寄付金収入	106,414,274	
5 運用収入	180,189	
6 その他収入	1,181,892	
当期収入合計		113,102,655
<b>II 支出の部</b>		
1 事業費		
(1) 市民の科学を目指す日本国内及びアジアの個人・グループの研究・研修への助成 助成金		
国内の個人・グループへの調査研究助成	10,000,000	
国内の個人への研修奨励	900,000	
アジアの個人・グループへの調査研究助成	2,700,000	
小計	13,600,000	
助成関係費		
公募関係費	31,165	
選考会費	882,650	
公開プレゼンテーション関係費	481,488	
成果報告会費	1,330,836	
アジア助成関係費	384,560	
小計	3,110,699	
(2) 市民科学の理念及び研究成果の普及 広報・普及事業費		
広報活動費	1,704,077	
普及活動費	597,656	
小計	2,301,733	
(3) 市民科学を目指す実践的な活動への助成		
福島原発震災を受けての緊急助成	6,500,000	
指定寄付による助成金追加支給	6,516,000	
委託研究費	3,000,000	
小計	16,016,000	
事業費合計		35,028,432
2 管理費		
事務局人件費	6,142,075	
法定福利費	53,703	
消耗品費	38,281	
通信運搬費	223,224	
支払家賃	406,963	
印刷費	227,007	
旅費交通費	103,020	
会議費	3,150	
支払手数料	255,019	
新聞図書費	39,800	
修繕維持費	7,839	
租税公課	700	
雑費	12,635	
管理費合計		7,513,416
3 その他		
長期事業引当金への繰入支出		50,000,000
当期支出合計		92,541,848
当期収支差額		20,560,807

2011年度（特定非営利活動に係る事業）貸借対照表

2012年3月31日現在

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目		金 額 (単位:円)	
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産	現金	102,264	
	普通預金 三菱東京UFJ	6,675,306	
	三菱東京UFJ (基金口)	35,030,593	
	りそな銀行	3,107,212	
	城南信用金庫	10,111	
	郵便振替 00140-6-603393	949,935	
	00160-4-758972	0	
	定期預金 城南信用金庫	50,000,000	
	国債 利付国債(10年) 第309回	20,000,000	
	未収入金 Paypal 寄付未入金分	288,262	
	GiveOne 寄付未入金分	5,000	
	仮払金 年末調整還付金控除未済額	13,710	
	流動資産合計		116,182,393
2 固定資産	なし	0	
	固定資産合計		0
	資産合計		116,182,393
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債	未払金 第11回助成金 未払分	12,100,000	
	過年度助成金 未払分	1,420,000	
	委託研究費 未払分	2,000,000	
	港洋社 口座振替依頼書等印刷費	188,895	
	リプロフォレット 基金だより発送費	240,282	
	泉印刷 基金だより印刷費	63,000	
	柏崎刈羽・科学者の会 書籍代	24,200	
	預かり金 雇用保険料従業員負担分	33,587	
	2011年7月～2012年3月給与支払分		
	地方税 2011年3月分	28,600	
	前受金 日本国際交流センター2012年度助成金	3,200,000	
	流動負債合計		19,298,564
2 固定負債	長期事業引当金	50,000,000	
	固定負債合計		50,000,000
	負債合計		69,298,564
<b>III 正味財産の部</b>			
	前期正味財産	26,323,022	
	当期正味財産増減額	20,560,807	
	正味財産合計		46,883,829
正味財産及び負債の合計			116,182,393

2011年度（特定非営利活動に係る事業）財産目録

2012年3月31日現在

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目		金 額（単位：円）	
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
資産の部			
現金		<b>102,264</b>	
普通預金	三菱東京UFJ	<b>6,675,306</b>	
	三菱東京UFJ（基金口）	<b>35,030,593</b>	
	りそな銀行	<b>3,107,212</b>	
	城南信用金庫	<b>10,111</b>	
郵便振替	00140-6-603393	<b>949,935</b>	
	00160-4-758972	<b>0</b>	
定期預金	城南信用金庫	<b>50,000,000</b>	
国債	利付国債(10年) 第309回	<b>20,000,000</b>	
未収入金	Paypal 寄付未入金分	<b>288,262</b>	
	GiveOne 寄付未入金分	<b>5,000</b>	
仮払金	年末調整還付金控除未済額	<b>13,710</b>	
流動資産合計			<b>116,182,393</b>
2 固定資産 なし			
資産合計			<b>116,182,393</b>
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
未払金	第11回助成金 未払分	<b>12,100,000</b>	
	過年度助成金 未払分	<b>1,420,000</b>	
	委託研究費 未払分	<b>2,000,000</b>	
	港洋社 口座振替依頼書等印刷費	<b>188,895</b>	
	リプロフォレット 基金だより発送費	<b>240,282</b>	
	泉印刷 基金だより印刷費	<b>63,000</b>	
	柏崎刈羽・科学者の会 書籍代	<b>24,200</b>	
預かり金	雇用保険料従業員負担分	<b>33,587</b>	
	2011年7月～2012年3月給与支払分		
	地方税 2011年3月分	<b>28,600</b>	
前受金	日本国際交流センター2012年度助成金	<b>3,200,000</b>	
流動負債合計			<b>19,298,564</b>
2 固定負債			
長期事業引当金		<b>50,000,000</b>	
固定負債合計			<b>50,000,000</b>
負債合計			<b>69,298,564</b>
<b>III 正味財産の部</b>			
正味財産			<b>46,883,829</b>
正味財産及び負債の合計			<b>116,182,393</b>

## 2011年度（その他の事業）収支計算書

2011年4月1日から2012年3月31日まで

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目	金 額 (単位: 円)	
I 収入の部		
その他の事業収入	0	
当期収入合計		0
II 支出の部		
1 事業費		
事業費	0	
事業費合計		0
2 管理費		
管理費合計	0	
管理費合計		0
当期支出合計		0
当期収支差額		0

## 2011年度（その他の事業）財産目録

2012年3月31日現在

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目	金 額 (単位: 円)	
I 資産の部		
資産	0	
資産合計		0
II 負債の部		
負債	0	
負債合計		0
III 正味財産の部		
正味財産		0
正味財産及び負債の合計		0

## 2011年度（その他の事業）貸借対照表

2012年3月31日現在

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目	金 額 (単位: 円)	
I 資産の部		
資産	0	
資産合計		0
II 負債の部		
負債	0	
負債合計		0
III 正味財産の部		
前記繰越正味財産	0	
当期正味財産増減額	0	
正味財産		0
正味財産及び負債の合計		0

2012年 4月 19日

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金  
代表理事 河合 弘之 殿

## 会 計 監 査 報 告 書

当法人の2011年度（2011年4月1日から2012年3月31日）の会計について、  
財産目録、貸借対照表、収支計算書等を精査した結果、適正なものである  
ことを認めます。

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金  
監事 神倉 順子

## 高木仁三郎市民科学基金 2011年度 助成金・委託研究費明細(兼 未払助成金明細)

金額単位:円

受付番号	テーマ	助成申込者名 または代表者名	グループ名	助成金額 (当初決定金額)	指定寄付による 追加助成金額	2011年度末 未払助成金	
【福島原発震災を受けての緊急助成】				小計	5,000,000	3,516,000	0
119-011	子どもの生活環境の放射能汚染実態調査と被ばく最小限化	青木 一政さん		1,000,000	1,595,000	0	
119-019	東海地方・市民放射能測定センターの開設と食品および環境の監視	伊澤 真一さん	未来につなげる・東海ネット 市民放射能測定センター	1,000,000	575,000	0	
119-021	母乳の放射能検査、福島原発事故による体内被曝	村上 喜久子さん	母乳調査・母子支援ネット ワーク	1,000,000	1,341,000	0	
119-004	福島原発事故による被害補償と費用負担	大島 堅一さん		300,000	—	0	
119-013	避難区域の人々の生活環境の変化と意識調査、六ヶ所村民・青森県民の意識調査	島田 恵さん	六ヶ所みらい映画プロ ジェクト	300,000	—	0	
119-026	エネルギー基本計画の課題分析、市民版基本計画策定、社会ムーブメントづくり	飯沼 佐代子さん	脱原発・新しいエネルギー政策 を実現させる会(eシフト)	800,000	—	0	
119-030	福島原発事故の全容をアジアに伝える ～脱原発に向けたアジア連携構築～	佐藤 大介さん	ノーニユクス・アジア フォーラム・ジャパン	300,000	—	0	
119-031	福島原子力発電所事故をメディアはどう伝えたか	白石 草さん	OurPlanet-TV	300,000	5,000	0	
【緊急対応として助成】				小計	1,500,000	3,000,000	0
—	「脱原発世界会議2012 YOKOHAMA」の開催 -福島を経験を世界の市民と共有し、教訓と行動提言を生み出す-	吉岡 達也さん	「脱原発世界会議」 実行委員会	500,000	3,000,000	0	
—	原発フリーの夏プロジェクト -原発再稼働問題の焦点となっている 関西電力大飯原発周辺自治体への緊急キャンペーン-	佐藤 潤一さん	グリーンピース・ジャパン	1,000,000	—	0	
【国内の個人・グループへの調査研究助成：放射能測定関係以外の案件】				小計	7,000,000	—	7,000,000
111-004	隠れGMナタネ及び交雑種の拡大調査	天笠 啓祐さん	遺伝子組み換え食品い らない！キャンペーン	300,000	—	300,000	
111-012	ビキニ事件の実相と福島原発被災との関連調査・研究	山下 正寿さん	高知県太平洋核実験被 災支援センター	500,000	—	500,000	
111-017	福島原発事故による内部被曝問題の研究と市民科学者の育成	澤田 昭二さん	市民と科学者の内部被 曝問題研究会	300,000	—	300,000	
111-018	泊原発の廃炉を実現させるための研究	小野 有五さん	泊原発の廃炉をめざす 会	800,000	—	800,000	
111-019	福島第一原発事故による放射能汚染と「低線量」被ばくによる健康影響を 検証するプロジェクト -国内外の市民・科学者を結集し、日本政府による 放射線防護対策を検証する-	隅田 聡一郎さん	市民科学者放射線防護 ネットワーク	300,000	—	300,000	
111-024	福島原発震災による放射能汚染被害者支援策の策定に向 けた課題に関する調査研究	中山 均さん	福島原発震災情報連絡 センター	300,000	—	300,000	
111-027	神奈川県における乳幼児への放射能汚染の実態調査	入澤 牧子さん	神奈川県母乳調査ネット ワーク	300,000	—	300,000	
111-045	アイヌ民族の権利回復に根ざした海と陸(おか)をつなぐ持続 可能な地域づくりに向けての調査研究～北海道・紋別～	畠山 敏さん	モペツ・サンクチュアリ ネットワーク	300,000	—	300,000	
111-046	泡瀬干潟・浅海域での埋立工事による「濁り(SS)」「濁度 (FTU)」の調査	前川 盛治さん	泡瀬干潟を守る連絡会	500,000	—	500,000	
111-050	熱帯プランテーションにおける紛争と人権問題の調査研究・ 提言	原田 公さん	熱帯プランテーション問 題研究会	300,000	—	300,000	
111-053	福島第一原子力発電所事故に関する情報公開制度を利用し た政府の持つ一次情報の収集・分析	三木 由希子さん	情報公開クリアリングハ ウス	400,000	—	400,000	
111-061	原発事故被害への対応と脱原発への方向転換を目指す政 策提言と社会ムーブメントづくり	吉田 明子さん	脱原発・新しいエネルギー政策 を実現させる会(eシフト)	400,000	—	400,000	
111-062	低線量被ばく回避のための調査研究および原発事故被害者 救済政策の形成	満田 夏花さん	国際環境 NGO FoE Japan	400,000	—	400,000	
116-002	ユーストリームの活用による原子力に関する科学的情報の 提供	伴 英幸さん	原子力資料情報室	300,000	—	300,000	
116-003	上関原発予定地周辺の生物多様性の解明と普及活動	高島 美登里さん	長島の自然を守る会	800,000	—	800,000	
116-004	六ヶ所再処理工場からの放射能放出に関する調査研究	古川 路明さん	六ヶ所再処理工場放 射線測定プロジェクト	800,000	—	800,000	
【国内の個人・グループへの調査研究助成：放射能測定関係の案件】				小計	3,000,000	—	3,000,000
111-006	食品、土壌などの放射能調査による市民生活の安全向上と 記録	藤川 泰志さん	ちようふ市民放射能測定 室準備委員会	300,000	—	300,000	
111-014	市民放射能測定所の開設 (通称「放射能どこでも調べ隊」)	大塚 尚幹さん	せとうち市民放射能測定 所	300,000	—	300,000	
111-030	北海道における食品の放射能汚染状況の測定と分析につ いて	矢内 幸子さん	福島の子どもたちを守る 会北海道	500,000	—	500,000	
111-035	市民による食品・体内放射能測定と脱原発をめざす活動	木村 肇二郎さん	いわき放射能市民測定 室たらちね	500,000	—	500,000	
111-049	福島原発事故被災地(南相馬市)における飲食物の放射能 汚染の調査研究	池田 光司さん	チェルノブイリ救援・中部	500,000	—	500,000	
111-056	空間放射線量測定と食品放射線量分析による放射能汚染実 態調査	佐藤 惣洋さん	放射能からきれいな小国 を取り戻す会	500,000	—	500,000	
116-001	日の出町処分場の放射能汚染焼却灰による環境影響調査	濱田 光一さん	たまあじさいの会	400,000	—	400,000	

## 高木仁三郎市民科学基金 2011年度 助成金・委託研究費明細（兼 未払助成金明細）

金額単位：円

受付番号	テーマ	助成申込者名 または代表者名	グループ名	助成金額 (当初決定金額)	指定寄付による 追加助成金額	2011年度末 未払助成金
<b>【国内の個人への研修奨励】</b>				<b>小計</b>	<b>900,000</b>	<b>900,000</b>
111-002	日本の原子力政策と原子力政策策定プロセスにおける市民参加	Philip Whiteさん		500,000	—	500,000
111-032	ボトムアップ型エネルギー供給システムの構築可能性に関する研究 ～ドイツと日本における非営利事業体による電力事業の現状と課題調査～	手塚 智子さん		400,000	—	400,000
<b>【アジアの個人・グループへの調査研究助成】</b>				<b>小計</b>	<b>2,700,000</b>	<b>1,200,000</b>
113-009	石油/化学/石油化学投資地域の候補地:タミル・ナドゥ州カダールール及びナーガッパティナム県の沿岸・マングローブ・農場エリアの社会環境ベースラインマップ作成のためのコミュニティによる取り組み	シュウエタ・ナラヤンさん	The Other Media /コミュニティ環境モニタリング(インド)	400,000	—	200,000
113-010	マニラ湾埋め立て計画が沿岸沿いのパラニャケ市とラスピニャス市に与える社会経済・環境影響:「期待される経済効果は事業費を上回るのか?」	パウロ・ロサレスさん	フィリピン漁民進歩同盟(PANGISDA) (フィリピン)	250,000	—	100,000
113-011	バタン原子力発電所施設利用の代替案に関する研究プロジェクト	チェスター・アンパロさん	非核バタアン運動ネットワーク(NFBM-Net) (フィリピン)	300,000	—	150,000
113-012	エクソン・モービル企業周辺に取り残されたコミュニティ	ハイルル・ハスニさん	Jari Aceh(インドネシア)	350,000	—	150,000
113-015	コンクリート・プロブレム:インドのセメント処理施設における有害な混合焼却による環境影響	アン・ララカスさん	脱焼却炉グローバル連合(GAIA) (フィリピン)	400,000	—	200,000
113-017	アジア各国の原子力輸入・輸出の現状調査:誰がどのように危険を輸出するのか?	イ・ホンソクさん	エネルギー正義行動(韓国)	800,000	—	400,000
113-020	フィリピンのミンダナオ北部のブキドノン州Impasugongとミサミスオリエンタル州Opolに居住する先住民族におけるオイルパームプランテーションによる社会環境影響の評価	ジョン・ライアン・メンドーサさん(フィリピン)		200,000	—	0
<b>【通年度分未払い助成金】</b>				<b>小計</b>	<b>1,420,000</b>	<b>1,420,000</b>
106-003	六ヶ所再処理工場からの放射能放出に関する調査研究	古川 啓明さん	六ヶ所再処理工場放射能測定プロジェクト	2010年度支出	—	800,000
102-005	米国の工業的畜産と多国籍アグリビジネス支配に対抗する市民運動(サステイナブル・フード・ムーブメント)の成果とその手法を学ぶ	野崎 香子さん		2010年度支出	—	200,000
102-006	米国ニューメキシコ州文化財として認定されたテラー山における「ロカ・ホンダ」ウラン鉱山開発問題	玉山 ともよさん		2010年度支出	—	170,000
93019	イロイロ市カラフナンの廃棄物処分場における環境・健康リスク調査【フィリピン】	ノーマン・デキーナさん	イロイロ市貧困者の会(KAISOG)	2009年度支出	—	150,000
93026	日本とインドネシアの比較研究:原発の意思決定に参加する市民の権利に関する調査【インドネシア】	ディアン・アブラムさん	インドネシア反核市民連合(MANUSIA)	2009年度支出	—	100,000
<b>助成金合計</b>				<b>20,100,000</b>	<b>6,516,000</b>	<b>13,520,000</b>
<b>【委託研究費】</b>				<b>小計</b>	<b>3,000,000</b>	<b>2,000,000</b>
【2006年度からの継続】「地震と原発」研究		山口 幸夫さん	原子力資料情報室	2006年度支出	—	500,000
「非政府系」科学者・技術者の結集による福島原発事故の検証と、NPO法人設立による持続的な活動体制の確立		後藤 政志さん	APAST	3,000,000	—	1,500,000
<b>委託研究費合計</b>				<b>3,000,000</b>	<b>—</b>	<b>2,000,000</b>

1. 2011 年度事業報告および決算報告について

(1) 国内枠助成

- ・ 2011 年度は、3 月 11 日に発生した東日本大震災によって福島原発事故が発生したことから、急遽、5 月 9 日から 25 日までを受付期間として、緊急の助成募集を行い、7 月までに 8 件、総額 500 万円の助成先を決定し、助成を実行した。(明細は p.8-9 をご参照)
- ・ この緊急助成については、従来の助成のように一年間の助成期間が終了したあとに成果発表会を行うかたちでは時機を逸すると判断し、10 月 1 日に、都内で「中間報告会」を行い、調査研究のねらいや進行状況を一般に発表し、支援者などと意見交換を行う場を設けた。

【福島原発震災を受けての緊急助成の募集・助成結果】

募集	国内向け調査研究助成 …… 2011 年 5 月 9 日～5 月 25 日
応募	応募件数 合計 31 件 応募総額 2,577 万円
選考	2011 年 6 月 19 日、選考委員会にて書類選考を実施。終了後の理事会にて助成先を決定した。
助成決定	福島原発震災を受けての緊急助成 合計 8 件 500 万円

- ・ この他に、通常の助成募集では間に合わない緊急の助成相談があり、2012 年 1 月の「脱原発世界会議」(助成金額 50 万円)と、2012 年 3 月のグリーンピース・ジャパンが大飯原発の再稼働問題に関して地元で展開しているキャンペーン活動(同 100 万円)について、緊急の助成を行った。
- ・ 今回、緊急助成で支援した 8 件の内、3 件を対象として事業指定寄付の募集を行い、寄せられた寄付を 12 月末までで集計し、合計 351 万円を追加の助成金として支給した。また、あらかじめ事業指定寄付の対象としていなかった 1 件への指定寄付(5 千円)と、「脱原発世界会議」への寄付(300 万円)についても、助成金として追加支給を行った。
- ・ 通常の助成募集としては、2012 年度に向けた第 11 回の助成募集・選考を行った。助成の予算としては、6 月の総会で承認された事業計画では、調査研究助成 500 万円、研修奨励 100 万円としていたが、10 月の理事会で再検討し、調査研究助成 650 万円、研修奨励 150 万円の予算で募集を行った。最終的に、調査研究助成 23 件 1,000 万円(昨年実績比+360 万円)、研修奨励 2 件 90 万円(同△127 万円)の助成を決定した。
- ・ 今回の助成募集では、福島原発事故以降の状況を受け、原発問題に関係する応募が多く寄せられるとともに、原発問題以外でも意欲的な応募が多く、選考は大変難しいものとなった。特に、各地での放射能測定に関わる応募が多かったこともあり、従来のように、書類選考通過者の全員を公開プレゼンテーションの対象とすることは、時間的にも難しいため、公開プレゼンテーションは、放射能測定に関わる案件以外のものを対象として行い、放射能測定に関わる応募については書類選考に基づいて助成先を決定することとした。その上で、放射能測定に関して、共通する課題を整理し、測定グループ同士の情報交換や今後の連携を深める場を設けることで、全体としての測定活動をより有効に実施することが重要であると考え、別途、3 月 25 日に「研究交流会」を実施した。

【第 11 回助成（国内枠）の募集・助成結果】

募集	国内向け調査研究助成 …… 2011 年 11 月 1 日～12 月 10 日 国内向け研修奨励 …… 2011 年 11 月 1 日～12 月 10 日																				
応募	<table> <tr> <td>応募件数</td> <td>国内合計</td> <td>72 件</td> <td>応募総額</td> <td>5,964 万円</td> </tr> <tr> <td>調査研究（一般応募）</td> <td></td> <td>63 件</td> <td></td> <td>5,258 万円</td> </tr> <tr> <td>調査研究（継続応募）</td> <td></td> <td>4 件</td> <td></td> <td>347 万円</td> </tr> <tr> <td>研修奨励</td> <td></td> <td>5 件</td> <td></td> <td>359 万円</td> </tr> </table>	応募件数	国内合計	72 件	応募総額	5,964 万円	調査研究（一般応募）		63 件		5,258 万円	調査研究（継続応募）		4 件		347 万円	研修奨励		5 件		359 万円
応募件数	国内合計	72 件	応募総額	5,964 万円																	
調査研究（一般応募）		63 件		5,258 万円																	
調査研究（継続応募）		4 件		347 万円																	
研修奨励		5 件		359 万円																	
選考	2012 年 1 月 23 日、選考委員会にて書類選考を実施。 2 月 18 日に、YMCA アジア青少年センターにて国内枠調査研究助成の公開プレゼンテーションを開催、終了後の理事会で助成先を内定した。																				
助成決定	<table> <tr> <td></td> <td>第 11 回助成</td> <td>累 計</td> </tr> <tr> <td>国内向け調査研究助成</td> <td>23 件 1,000 万円</td> <td>147 件 7,840 万円</td> </tr> <tr> <td>国内向け研修奨励</td> <td>2 件 90 万円</td> <td>27 件 1,293 万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>25 件 1,090 万円</td> <td>174 件 9,133 万円</td> </tr> </table>		第 11 回助成	累 計	国内向け調査研究助成	23 件 1,000 万円	147 件 7,840 万円	国内向け研修奨励	2 件 90 万円	27 件 1,293 万円	合計	25 件 1,090 万円	174 件 9,133 万円								
	第 11 回助成	累 計																			
国内向け調査研究助成	23 件 1,000 万円	147 件 7,840 万円																			
国内向け研修奨励	2 件 90 万円	27 件 1,293 万円																			
合計	25 件 1,090 万円	174 件 9,133 万円																			

- ・第 9 回助成先の助成期間が 2011 年 3 月で終了し、調査研究・研修成果のとりまとめを行った。
- ・第 9 回助成の成果発表会を 7 月 9 日(土)に、東京のカタログハウス・セミナーホールで開催した（参加者 85 名）。
- ・調査研究・研修の完了報告書・会計報告書は、成果発表会の当日資料として配付するとともに、概要をホームページに掲載した。また、助成の成果報告をまとめた「高木基金助成報告集 vol.8」については、事務局の編集作業が遅れ、2011 年度中の発行ができなかったため、2012 年度の早期に発行する。

(2) アジア枠助成

- ・第 11 回助成について、8 月中旬～9 月末に募集を行い、28 件（調査研究 26 件、研修奨励 2 件）の応募が寄せられた。選考委員による書類選考を経て、理事会で 7 件 270 万円の助成を決定した。（明細は P.9 をご参照）
- ・応募の特徴としては、フィリピン（10 件）とインドネシア（6 件）の案件が多かったが、全体としてアジア 8 カ国から廃棄物、原発、石炭火力、鉱山開発、先住民族の権利、森林・河川・沿岸保全など幅広い問題をテーマとする申込みがあった。例年より、高木基金の目的や市民科学を理解した上での応募が増えた印象であった。
- ・予算は 200 万円であったが、福島原発事故を受けた原発関連の動きを積極的に支援する一方で、その他の分野でも比較的高い評価を受けた案件が多かったことから、最終的に予算を超えた助成を行うことが理事会で承認された。
- ・第 10 回助成先については、活動状況を把握できる助成先が多かったこともあり、現地訪問は行わなかった。その一方で、福島原発事故を受けた緊急助成の助成先であるノーニュークスアジアフォーラムの日本開催（8 月）の側面的な支援を行った他、韓国での同フォーラム（3 月）にも参加し、アジアにおける反原発運動の支援及び情報収集を行った。また、インドネシアの反原発運動の再構築に対する支援を実施した。
- ・米国 Global Greengrants Fund (GGF) から昨年に続き助成を受けた他、福島原発事故対応に取り組む国内 2 団体に対する GGF からの助成の橋渡しと側面支援を行った。

**【第 11 回助成（アジア枠）の募集・助成結果】**

<b>募集</b>	調査研究助成・研修奨励 …… 2011 年 8 月 15 日～9 月 30 日		
<b>応募</b>	応募件数	28 件	応募総額 2,317 万円
	内 調査研究	26 件	2,146 万円
	研修奨励	2 件	171 万円
<b>選考</b>	2011 年 11 月 17 日～12 月 6 日に選考委員による書類選考を実施。 2011 年 12 月 19 日の理事会で助成先 7 件を内定。		
<b>助成 決定</b>		<b>第 11 回助成</b>	<b>累 計</b>
	アジア向け調査研究助成	7 件 270 万円	33 件 1,465 万円
	アジア向け研修奨励	なし	2 件 115 万円
	合計	7 件 270 万円	35 件 1,580 万円

**(3) 委託研究**

・「柏崎刈羽・科学者の会」

「柏崎刈羽・科学者の会」が主催し、原子力資料情報室、高木学校、高木基金が協力するかたちで、7 月 10 日（日）に、日本科学未来館にて、公開フォーラム「福島原発震災の真実」を開催した。（参加者 300 名）

2011 年度の事業計画では、東日本大震災によって発生した「福島原発震災」を受け、この事故への調査分析を重点とし、これまでの老朽化問題、地震と原発研究に関わる問題も含めたかたちで「柏崎刈羽・科学者の会」への委託研究を実施する方針だったが、その後、「柏崎刈羽・科学者の会」の関係者とも打合せをする中で、後藤政志氏、田中三彦氏らが中心となり、あらたなグループ「APAST」を設立し、日本における「憂慮する科学者同盟」（UCS）を目指すことも視野に入れながら、活動していくこととなった。

このため、委託研究の相手先を、「APAST」とし、「福島原発事故検証と非政府系研究者組織確立」というテーマで 300 万円の委託研究を開始した。これについては、当面 3 年程度は同額程度の委託研究費を支給し、「APAST」の組織基盤確立を支援する方針とした。

・「地震と原発」研究

この委託研究は、2006 年 11 月からの取り組みだが、今年度は福島原発事故の対応等で、この研究グループとしては独自の動きがなく、未払いの委託研究費の支出も行わなかった。

- ・この他に、福島原発事故以降の状況を踏まえ、a) 子どもの健康影響調査、b) 食品の放射能汚染問題、c) 除染・放射性廃棄物と処分問題についての委託研究を、2012 年度に実現する方向で検討してきた。b) については、放射能測定活動に関する「研究交流会」を開催し、活動への足がかりができたところだが、a)、c) については、検討段階に止まっている。

**(4) 選考委員の一般公募**

- ・2007 年度から実施している選考委員の一般公募では、2011 年度は、4 名の応募者の中から、理事会で選考の結果、青木将幸氏と遠藤邦夫氏の 2 名に選考委員を委嘱することとした。

## (5) 会員・組織基盤拡大の取り組み

- ・2011年度の会員・支援者数の状況は下記の通り。  
従来から、新規の支援者拡大に努めながらも、なかなか成果が上がっていなかったが、今年度は会員で20名増、寄付者は210名の大幅増加となった。
- ・2011年8月から、ウェブサイトからのクレジットカード決済による寄付の受け入れを強化した。今年度のクレジットカードによる支援は、合計94件、548千円となり、昨年度の10件、34千円から大きく増加するとともに、新規支援者(31名)の獲得にも寄与している。
- ・支援者の内訳でも、「継続」の支援者は従来と変わらないが、「新規」と「復活」が大幅に増加した。
- ・今年度は、遺産からのご寄付(5千万円)と遺贈の入金(3千万円)があり、収入に大きく寄与したが、これ以外にも、50万円以上の大口寄付として14名から1,900万円もの入金があった。この中でも8名1,200万円は新規の支援者であり、今年度は新規支援者との関係を深め、継続的な支援を得られるように努めていきたい。
- ・大口以外の一般の支援も例年に比べて約300万円の増加であり、一般の支援者に対しても、きめ細かいフォローを続け、支援を継続していただけるようにしていきたい。

### 2007-2011年度の支援者数の推移

	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	前年度比	備考
正会員	18人	18人	19人	19人	20人	+1人	
維持会員	268人	256人	241人	234人	233人	▲1人	
賛助会員	314人	293人	275人	281人	301人	+20人	
会員計	600人	563人	535人	534人	554人	+20人 (+3.7%)	*1
寄付者	120人	130人	138人	120人	330人	+210人	
支援者総数	720人	693人	673人	654人	884人	+230人 (+35.1%)	
支援者の内訳							*2
新規	47人	40人	57人	50人	181人	+131人	
継続	517人	521人	478人	448人	473人	+25人	
復活	156人	132人	138人	156人	230人	+74人	

\*1 一部重複があるため合計が一致しない \*2 内訳の「継続」は前年度も支援のあった方、「復活」は過去に支援の実績があり、前年度はなかった方。

### 2008-11年度の会費・寄付の内訳(市民研究サポートを含む)

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	前年比
支援合計	15,890千円	19,589千円	13,306千円	110,986千円	+97,680千円
内 一般の会費・寄付	7,284千円	7,589千円	8,056千円	11,181千円	+3,125千円
〔1人あたり〕	[10,512円]	[11,276円]	[12,319円]	[12,648円]	[+329円]
内 大口の寄付	8,606千円	12,000千円	5,250千円	99,805千円	+94,555千円

1件で50万円以上の寄付を大口の寄付、それ以外を一般の会費・寄付として集計している。

- ・ニューズレター「高木基金だより」等の発行（約 2,700 部）については、従来、年間 4 回（基金だより 3 回＋公開プレゼンテーションの案内）を予定しているが、前年度の基金だよりの発行分を 1 回含み、5 回の発行を行った。

## (6) 2011 年度決算について

- ・2011 年度の収入は、福島原発事故以降の社会情勢を受け、会費が若干予算を下回ったものの、寄付が人数、金額とも大幅に増加し、会費・寄付の合計は 1 億 1 千万円を越えた。
- ・この中では、遺産からのご寄付（5 千万円）と遺贈（3 千万円）が大きく寄与しているが、それ以外の大口寄付及び、一般の方からの支援も大きく伸びた。
- ・一方、支出では、福島原発震災を受けての緊急助成として公募で 8 件/500 万円、これ以外の緊急対応で 2 件/150 万円を助成し、これらに対する指定寄付による追加分として 651 万円を支給した。通常の助成募集でも、国内枠の調査研究助成で 24 件/1,000 万円、研修奨励 2 件/90 万円、アジアの調査研究助成に 7 件/270 万円を決定し、助成金全体では、当初の予算を大幅に上回る 2,661 万円を支出した。
- ・今年度の大幅な収入増加を受け、長期事業への引当金支出として 5,000 万円を計上したことにより、支出総額は 9,254 万円となり、2011 年度の収支は＋2,056 万円、年度末の基金残高は、4,688 万円に増加した。

## 2. 2012 年度事業計画及び収支予算について

### (1) 第 1 2 回助成(国内枠およびアジア枠)

#### 国内枠

- ・今年度の国内枠助成については、昨年度実施した緊急助成の募集は行わず、従前と同様に 11-12 月に通常の募集を行うかたちとする。ただし、助成の予算については、昨年度の助成及び収入規模の拡大を踏まえ、以下の通り増額する。
- ・また、緊急に助成が必要な案件について、機動的に対応するための予算を別途計上することとしたい。
- ・第 11 回助成および 2011 年度緊急助成の成果発表会の開催および、助成報告集の発行を行う。なお、2011 年度中に完了しなかった、第 10 回助成の助成報告集の発行を早期に行う。

#### アジア枠

- ・今年度のアジア枠助成については、助成時期と募集方法については基本的に 2011 年度と同様のかたちで取り組むが、昨年引き続き、福島原発事故を受けたアジアにおける反原発の動きを積極的に支援する。また、助成の予算については、昨年度の助成及び収入規模の拡大を踏まえ、以下の通り増額としたい。
- ・なお、アジア枠においては現地の状況把握が困難であることから、助成申請額から大幅な減額は行わない方向で助成を実施することとする。
- ・アジア枠助成の対象国で活動を行う日本の NGO スタッフなどとの協力関係を深め、市民科学の普及につながる活動を促進・実施する。
- ・国内枠同様、通年の助成枠を新たに設け、社会情勢の中で緊急性や重要性の高い研究や活動の支援を実施する。
- ・第 11 回助成先の現地訪問を行い、各調査研究およびアジアにおける市民科学の現状把握ならびに支援・連携体制の構築を図る。
- ・欧米の財団や NGO との連携の方法を引き続き模索する。
- ・高木基金ウェブサイトや広報物を通じて、助成先の成果や高木基金の活動を分かりやすく発信する。

助成分類		2012年度予算	備考
国内枠	調査研究助成	800万円	従前比 +150万円
	研修奨励	200万円	同 +50万円
アジア枠	調査研究助成・研修奨励	300万円	従前比 +100万円
緊急対応予算枠		200万円	新設
合計		1,500万円	従前比 +500万円

## (2) 放射能測定活動に関わる研究交流事業

- ・2012年度国内枠助成応募に際し、各地で放射能測定に取り組むグループからの応募が多く寄せられ、助成を決定した7団体とともに、助成対象とはならなかったグループにも呼びかけて、3月25日に、名古屋で「研究交流会」を実施した。2012年度は、このようなかたちで、測定グループ同士が顔をあわせ、お互いの経験を交流し合い、測定の精度向上や運営体制の強化を図っていく取り組みを継続的に実施したい。
- ・この取り組みについては、日本国際交流センターから年間320万円の助成を今後3年間継続して受けられることとなった。これを活用するとともに、高木基金としても、放射能測定に関する支援事業への指定寄付を募ることで、資金を確保し、積極的に取り組んでいきたい。
- ・2012年度の具体的な活動計画はこれから具体化するが、年間、3・4回の交流会を企画する方針としたい。

## (3) 委託研究

- ・昨年度、委託研究として支援した「APAST」による「福島原発事故検証と非政府系研究者組織確立」は、文字通り、非政府系研究者組織としての確立を目指す取り組みの運営面を当面3年程度支援することとしたものであり、昨年同様、300万円の委託研究を実施したい。
- ・従来から委託研究として支援してきた「柏崎刈羽・科学者の会」については、「研究サポート」の寄付を募ってきており、この残高が92万円となっている。これを活用するかたちで、「柏崎刈羽・科学者の会」が実行委員会の中核となって企画されている、福島原発事故の検証と海外への発信を主眼とした国際シンポジウム（8月末に東大駒場キャンパスにて開催予定）について、委託研究として100万円を支援したい。
- ・また、昨年度末に緊急の助成申込みを受けたグリーンピース・ジャパンによる大飯原発再稼働を阻止するための地元へのキャンペーンについては、引き続き、極めて緊急性の高い課題であり、グリーンピース側も、相当の体勢で取り組んでいることから、昨年度の助成申込時に減額した200万円を委託研究として支援することとしたい。
- ・これに加え、昨年10月の理事会で、福島原発事故以降の動きとして検討してきた
  - a) 子どもの健康影響調査、
  - b) 食品の放射能汚染問題、
  - c) 除染・放射性廃棄物と処分問題、
 については、現時点では、具体的な事業予算を織り込まないが、引き続き実現の可能性を探りたい。

## (4) 大口寄付による新規事業

- ・昨年度の大口寄付（5千万円）により、今後10年程度にわたって実施する新規事業を具体化する。若い世代の人材育成を主眼としたものを考えたい。

## (5) 選考委員の一般公募

- ・2007年度から実施している選考委員の一般公募は、選考および組織運営の活性化に寄与しており、今年度も従来同様に選考委員の一般公募（1名）を実施する。

## (6) 会員・組織基盤の拡大とそのための広報の強化

- ・従来から、会員・支援者への継続支援を呼びかけてきたが、特に、2011年度の新規支援者に対して、継続支援を重点的に呼びかけることとし、会費口座振替の利用者拡大を目指す。
- ・この間、遺贈や大口寄付の入金が続いたことを踏まえ、これらの事例をわかりやすく紹介することで、あらたな遺贈や大口寄付獲得を目指す取り組みを具体化する。
- ・ニュースレター「基金だより」については、内容の充実や、一般の人が手に取りやすいレイアウトにするなどの工夫を図りたい。

## (7) 2012年度予算

- ・今年度の予算は下表の通りとし、助成金 1,600 万円（今年度の新規募集分 1,500 万円と、事業指定寄付による 2012 年度実施中の助成への追加支給分として 100 万円を見込む）と委託研究費 600 万円を含む事業費総額 4,300 万円を、単年度の収入で賄うことを目指したい。

(単位:千円)

		2010年度 実績	2011年度 実績	2012年度 予算	前年実績 対比	備考
収 入	会費収入	4,389	4,561	5,500	+939	
	寄付収入	8,868	42,848	22,000	△21,848	
	市民研究林 <sup>*</sup> -ト・事業指定寄付	50	63,577	6,000	△58,577	
	支援小計	13,307	110,986	33,500	△77,486	
	内 一般の会費・寄付	8,056	11,181	10,500	△681	
	内 大口寄付	5,250	99,805	23,000	△76,805	
	補助金など	163	765	4,000	+3,235	
	利息・雑収入など	620	1,363	1,000	△363	
	長期事業引当金取り崩し	—	—	5,000	+5,000	
		収入合計	14,089	113,114	43,500	△69,614
支 出	助成金	10,270	26,616	16,000	△10,616	
	委託研究費	0	3,000	6,000	+3,000	
	助成関係費(研究交流事業)	—	—	2,000	+2,000	
	助成関係費(国内)	1,412	2,725	2,200	△525	
	助成関係費(アジア)	287	385	600	+215	
	広報・普及事業費	1,694	2,302	2,200	△102	
	新規プロジェクト事業費	—	—	4,000	+4,000	
	管理費	5,607	7,502	10,000	+2,498	
	内 人件費	4,602	6,142	8,500	+2,158	
	長期事業引当金支出	—	50,000	—	△50,000	
	支出合計	19,270	92,530	43,000	△49,530	
収支差額		▲5,180	+20,584	+500	△20,084	
年度末正味財産(基金残高)		26,323	46,907	47,407	+500	

以 上